

景観研究から地理情報科学へ

谷口亮

From Landscape Research to Geographic Information Science

Ryo TANIGUCHI

1. はじめに

著者は学生時代に建設工学を専攻し、景観論の研究を行っていた。

はじめて GIS と関わったのは、修士論文におけるアイマークレコードを用いた鳥瞰図の視線解析である。アイマークレコードで取得した視点データを GIS に取り込み、メッシュ解析や空間補間を行うことで、地域の描かれ方と鑑賞者の注視特性の関係を考察し、今後のまちづくりに資する地域表現手法を模索していた。

研究を進める中で、1/25000 地形図調製に端を発し、地理空間情報を広く専門的に扱う東京地図研社に出会い、2013 年に入社し現在に至っている。

2. 最近の主な取り組み

2.1 単写真を用いた位置・距離情報の取得手法

業務の中で、立ち入りが難しい物体の長さ計測が必要となり、写真測量の原理を用いた、迅速かつ安価な計測手法を考案した。G 空間 EXP2013 の「測量コンテスト」では、本手法を用いて直径約 6m の球体の計測を行い、精度や計測手順が評価され、敢闘賞をいただいた。さらに、2014 年の第 36 回測量調査技術発表会で本手法に関して口頭発表を行い、同年、雑誌「先端測量技術」106 号に論文が掲載された。

谷口亮 〒183-0035 東京都府中市四谷 1-45-2

株式会社東京地図研究社 (Tokyo Map Research Inc.)

Phone: 042-364-9765

E-mail: taniguchi@t-map.co.jp

2.2 歩道ネットワークデータ作成

国交省の「歩行空間ネットワークデータ」は、整備範囲が都心部に限定され、整備・維持コストも大きい。そこで、公開情報（基盤地図情報等）から、歩道中心線を自動的に生成する手法を考案した。さらに、作成したネットワークデータの解析やその利活用の検討を進めており、将来的には高精度測位社会に向けて視覚障害者の移動支援の一助になることを目指している。本研究成果は、本会場にてポスター発表を行っている。

2.3 鳥瞰図の収集分析

過去から現在の鳥瞰図を個人的に調査収集し、それらの描画手法等についてとりまとめを進めている。これに関連して、デフォルメ鳥瞰図のような数学座標を持たない地理空間情報を、如何に GIS データとして扱うか模索している。

3. 自身が考える将来の展望

3.1 「G」から「S」へ

地上 (=Geographic) だけではなく、宇宙空間や海底、屋内などを含めた、トータルな空間 (=Spatial) をシームレスに取り扱えるデータ構造やソフトウェアの検討を行いたい。

3.2 空間表現手法の模索と発表

吉田初三郎の描いた鳥瞰図は、対象地域をグローバルに位置づけつつ、中心と細部を併せ持った描かれ方がなされている。それらの描画手法をヒントに、自分で鳥瞰図を企画・製作し、製品として販売していきたい。